

平成29年度 自己評価表

鳥取城北高等学校

《建学の精神》
 質実剛毅の校訓を基底に、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、明朗闊達にして進取の気象に富んだ人材の教育目標育成をめざす
 ○ホスピタリティを重視し、生徒、保護者、教師がともに幸せになれる教育
 ○グローバルスタンダードな視点を持ち、社会に通用する力と豊かな心を育む教育

今年度の重点目標
 『生徒指導、学習指導を学校運営の両輪として、「鳥取城北生5つの誓い」を実践する。』
 ・多様な進路希望に対応できる教育環境の整備を図り、生徒が伸び得る場をつくる。
 ・自らの目標の実現に向けて、主体的に行動できる生徒を育てる。
 ・自ら考え責任ある行動ができる生徒を育てる。

年度当初				中間評価結果(9月)			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	後半に向けての改善点等
学力向上	生徒の基礎学力の向上と、中間層の学力の向上を図る。	H28年度第3回基礎力診断テスト ・Dゾーンの割合は全体で52% ・Bゾーンの割合は全体で7% ・ 普通コースにおける平均家庭学習時間は35分	実力診断テストにおいて、 ・Dゾーン50%以下。 ・Bゾーン10%以上。 ・ 普通コースにおける家庭学習時間を50分以上。	・日廻(スタディサプリ)の活用。 ・放課後の補習・講座の開講。 ・長期休業中の補習の活用。	1学期後半からスタディサプリを用いた日廻を開始。城北ゼミ・基礎力養成講座を2学期から開始。3年生普通コースにおいて全員参加型の補習を実施。	B	目標達成のため、日廻の実施・講座の定期的な開催を徹底する。
進学指導	生徒の進学意識と学力を高め、進路希望を実現させる。	H28年度実績 ・3年生:現役国公立大学+難関私立大学合格者延べ数26名 ・2年生:1月進研模試国数英総合SS50以上25名 ・1年生:1月進研模試国数英総合SS50以上56名	・3年生:現役国公立大学+難関私立大学合格者延べ数35名 ・2年生:1月進研模試国数英総合SS50以上60名 ・1年生:1月進研模試国数英総合SS50以上35名	・進路検討会および成果の取り組みの共有会を実施する。 ・大学生や大学教員との交流、キャリアデザイン講演会等を行い、進学意識を高める。 ・生徒面談を積極的に行う。 ・1年生初期指導合宿、3年生栄光塾合宿、夏勉強合宿を実施する。 ・スタディサプリを有効的に活用する。	3年生:A0国公立大学、難関私大2名合格、9月マーク5-8文系5-7理系SS50以上17名 2年生:7月進研模試国数英総合SS50以上52名 1年生:7月進研模試国数英総合SS50以上47名	B	3年生:授業での演習量を増やす。放課後補習を適宜実施する。 1、2年生:栄光塾への継続的な参加を呼び掛ける。スタディサプリの活用を進める。
就職指導	全学年でキャリア教育を推進し、早期の職業観、就労意識を構築し、第1志望内定率を上げる。	H28年度実績 ・就職内定率100% ・第1志望内定率84%	・内定率100%を早期に実現(1月中旬まで) ・第1志望内定率80%以上。	・ハローワーク等外部の機関との連携を強化し就職ガイダンス・インターンシップ・企業説明会・企業見学・様々な職種の講話・体験学習などの実施、参加。 ・面接練習、合同面接会の実施。 ・就職模試等。	7月新規高卒求人事業所説明会への参加、就職模試・模擬面接練習会の実施。現在53名受験し38名合格、8名不合格。(内定率84%)	B	不合格者の原因を把握し、次に向けての対策、行動をスピーディーにサポート。
AL推進	生徒の学習意欲を高める授業を全職員が実践し、生徒の学力を向上させる。	生徒を意欲的にさせるためのAL型授業を実践しようとする風土はできつつあるが、授業の質的向上が求められる。	生徒が寝ない、楽しいと感じる、学力が向上する授業が行われている。	・EST、強化選手教員、教科主任を中心に、教科会で授業改善に向けて研鑽していく。 ・強化選手教員による学期ごとの研究授業。 ・定例職員会での実践共有。 ・校内研修会。	職員アンケートによる授業改善への取り組み度は平均63.5点であった。	B	強化選手教員の研究授業を確実に実施していく。情報共有を続けていく。相互授業参観の活性化を図る。
人権教育	鳥取県が目指す人権教育を基底にし、LHRの充実を図り生徒の人権意識を高める。	出身中学校により、人権教育に関する学習内容の差が大きい。	生徒の実態に即した人権学習が展開され、生徒の人権意識が高まっている。	・個別面談を利用し、生徒の人権に対する意識を高める。 ・生徒の実態に応じた学習教材の選定をする。 ・各種研修会や交流会などの参加を促す。 ・公開人権LHRの参加率を高める。	7月の生徒アンケートの集計から、人権教育に関する4つの項目で90%以上の生徒から人権意識の深まりを示す回答(あてはまる・だいたいあてはまる)があった。	A	アンケート集計で「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と回答した生徒に対し、さらに各学年・コース・クラスの実態に応じた学習教材の選定に力を入れて、LHRの充実を図りたい。
生徒指導	頭髪服装違反者を減らし、規律ある生活習慣を身につけさせる。	・一部の生徒が違反を繰り返すという傾向が見られる。 ・学期はじめの検査での不合格率が高い。	初回検査合格率(4月検査を除く)が70%以上である。	・違反者への段階的指導を徹底しておこなう。 ・身だしなみチェックを活用しながら、日々指導の積み重ねを大切にする。 ・必要に応じて連絡をおこなうなど、家庭との連携を密にする。	服装検査の初回合格率が9割弱。日々の学校生活も大きな問題も減ってきている。特定の生徒が継続指導が必要と感じる。	A	日々の身だしなみチェックを継続強化。気になる生徒への声かけ、また違反者への継続指導も含めて強化していきたい。
生徒会	生徒主体の生徒会活動を活発にさせる。	・昨年度から実施している意見箱や毎週の執行部会の実施など執行部の生徒は意欲的に活動している。 ・各種委員会に所属する学級役員の活動ができていない。	学級役員活動や意見箱の活用を通して、生徒が主体的に生徒会活動に関わっている。	・生徒会執行部会を毎週実施する。 ・各種委員会を定期的に関き、学級役員の役割を明確にする。	生徒会執行部会を毎週ではないが、定期的に実施し、昼休憩での挨拶運動への啓発、管理美化での清掃活動強化、文化委員でのベルマーク集め等積極的に行うことが出来た。	B	まだ不十分の委員会は、生徒会執行部・職員が積極的に発信していくことが重要である。全職員・全校生徒に周知する工夫をしていく必要がある。
教育相談	不安を感じることなく学校生活を送ることができる。	年度当初より教育相談室が関わる生徒、保護者がおり、今後も教育相談室が関わる生徒、保護者が増える可能性がある。	生徒の不安を取り除くために、教育相談室がクラス担任、管理職、学年主任と連携をとり、迅速かつ丁寧に対応していく。	・生徒、保護者の困りごとに対し、クラス担任をはじめ、管理職、学年主任と共に教育相談室が十分に対応していく。 ・生徒、保護者、担任の困りごとに対し、教育相談室からの声掛けを心がけるとともに、SCとの速やかな連携を図る。	教員向けの教育相談アンケートにおいて、「利用しやすい」という回答が77%であった。一方「わからない」「利用しにくい」という回答も少なからず見られた。	A	今後、より一層教員および生徒・保護者へ、教育相談室やSCの活動を周知していき、相談しやすい環境を推進していく。